

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	湿気小委員会	主 査 名：銚井修一 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (熱環境運営委員会)	委員長名：加藤信介 主 査 名：坂本雄三
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湿気関連分野の研究者数、研究発表件数は小委員会規模にまで増加しており、また日本独自の研究テーマ・成果も多く、これらの継承と進展を図ることが基本的な目標である。2 年間の具体的目標を次の 2 項目とする。</li> <li>1) 未解決重要テーマについて討議するため SWG 設置を計画する。</li> <li>2) 今後の湿気研究を見据えて、「熱シンポジウム」の開催に向けての検討を行う。</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：公募委員 2 池田哲朗(近畿大学) 岩前 篤(近畿大学) 銚井修一(京都大学) 小椋大輔(京都大学) 尾崎明仁(北九州市立大学) 坂本雄三(東京大学) 佐藤真奈美(大阪工業大学) 鈴木大隆(北海道立北方建築総合研究所) 本間義規(岩手県立大) 荒井良延(鹿島建設) 高田 暁(神戸大学) 永井久也(三重大学) 水谷章夫(名古屋工業大学) 土屋喬雄(東洋大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吸放湿材の評価・利用 WG：吸放湿材に関わる項目の整理、現在の研究の整理、吸放湿材の評価・利用に関わる問題の検討と整理</li> <li>・湿気と健康 WG：湿気と健康に係わる各種法律の検討、講演会開催、研究内容の紹介と質疑、総括</li> <li>・建物の「湿害」検討 WG：被害の調査・分類、被害発生メカニズム検討、湿害分類のキーワード・評価指標の検討、「湿害」の予測・防止法の検討</li> <li>・熱物質移動数値計算 WG：ベンチマークテストの実施、実験結果との対応、計算結果同士の比較、定量的評価手法の整理</li> </ul>	
2006 年度予算	162,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む) 各 WG における委員会回数は、計 12 回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 湿気関連の諸問題の整理とその解決に向けて、小委員会および WG を開催するとともに、メーリングリストを利用して意見交換を行った。 2. 4WG とも活発に WG を開催した。また、それらを積極的に支援した。 3. WG の活動結果の公表を支援した。 4. 結果的に、今年度は非常に活発に活動し多くの成果を得たと考えられる。
委員会活動の問題点・課題	1. 経費削減および意見交換の時間確保のため電子会議による委員会を数回実施したが、参加者個々のインターネット接続環境の違いにより若干困難な状況が生じた。 2. ホームページを開設したいが、適切な人材(あるいは経費)の確保が難しい。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

## 2006 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置した4つのWGの殆どが活発に活動を行い、目的とする成果を9割方達成することができた。それらの成果の一部は、熱シンポジウムにおいて公表し、会員への還元をはかった。また、シンポジウムでいただいたコメントなどの意見については、現在の活動に反映している。</li> <li>・さらに、内容の展開、充実をはかるためにWGを増やし、来年度から全体としてより一層の充実を目指す予定である。</li> <li>・小委員会およびWGとも公募を行い、広く委員の参加を求めた。また、委員会の平均年齢を下げる努力を行った。</li> <li>・インターネットによる会議を2回開き、交通費の不足を補う努力を行った。</li> <li>・ホームページの開設を行う予定であったが、主査の怠慢でまだ実現していない。</li> <li>・以上を総合して、過年度は非常に活発に活動し多くの成果を得たと考えられる。</li> </ul>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。